



### ◇委員の紹介◇

**日本生命保険相互会社 国際計理室長 兼  
調査部担当部長 兼 主計部担当部長  
穴田 祐史**

この度は企業会計基準委員会の非常勤委員の任を拝命し、また、このように財団ウェブサイトへの寄稿の機会を頂戴し、ありがとうございます。私は生命保険会社で決算業務に関わった経験があり、現在、国際的な保険規制や会計基準等の調査業務を担っております。近年では、IFRS 第 17 号「保険契約」の基準化に当たり、生命保険業界への影響分析や日本の生命保険協会の意見発信等に参画してまいりました。ただし、私自身は会計士ではなく、またこれまで会計基準策定に関わった経験もないため、現在進行中のプロジェクトについてもこれから勉強させていただき、委員としての重責を果たすべく努力してまいります。なお、この度委員を務めるに当たり、改めて専門外の立場から「会計とは何か」を考えてみたところ、以下の 2 つの疑問が頭に浮かびました。

1 つ目の疑問は、世の中が大きく動いている中で、会計の普遍的価値とは何か、ということです。会計のルーツは中世のイタリア商人による複式簿記を用いた取引記録であり、19 世紀の産業革命の中で、企業が一般の投資家から資金調達を進める必要が生じたため、アカウントビリティを果たすために会計が発展したと言われております。すなわち近代会計の成立の背景には、資本主義を中心とした近代の経済の大きな発展があったということだと思えます。今日では、急速なデジタル化の進展が、あらゆる分野でビジネスモデルの変革を起こしており、また、近代会計の成立を推進してきた資本主義は、行き過ぎた株主至上の修正を迫られるなど曲がり角にきております。一方で、「不易流行」という言葉がありますが、会計の世界においても、時代を経ても変化しない本質的なものと、新しく変化を重ねるべきものがあると思えます。私は信頼される正確な財務情報を提供することは会計の根幹であり、客観的で検証可能な情報により説明責任を果たすことが会計本来の目的であろうと思えます。従って、時代の変化に敏感でありながらも、本質を見失わないバランス感覚が、会計基準策定においても求められていると考えます。

2 つ目の疑問は、IFRS 任意適用企業が増える中、日本の会計基準に期待されていることは何か、ということです。財務情報の比較可能性を高め、日本の会計基準への信頼性を確保するためには、日本基準と IFRS との整合性を維持することは重要です。一方で、日本は独自の会計基準を持つ数少ない国の一つであり、我が国の産業競争力を確保するためにもその品質の維持も重要です。例えば IFRS と日本基準の違いとして、IFRS は日本基準より原則主義であることや、日本基準は保守性を重視していることが一般的に言われていますが、絶対

## 委員長及び委員の紹介

的な正解がない中で、日本基準を用いている企業やその財務情報の利用者が何に期待しているかを考慮すべきと思います。そして、国際的な会計基準を日本基準に採り入れる際には、それを日本基準の一部として見たときに適切か十分な検討が必要であろうと考えます。

最後に、私自身これからも会計基準について勉強させていただき見識を深めていくとともに、様々な感じた疑問についても自分なりに課題意識を持ちながら審議に臨みたいと考えております。会計に関する知識や経験の豊富な委員やスタッフの皆さまとご一緒することで、自分自身も視野を広げられることを楽しみにしつつ、高品質な会計基準の開発に精一杯貢献して参りますので、何卒宜しくお願い申し上げます。